

世界のソーシャル・ビジネス

日本編



保険証・予約不要の 「ワンコイン健診」



上・ケアプロ川添高志
社長 下・血液検査
機器。保健師の資格を
持ったスタッフが使い
方を教えてくれる



「ワンコイン(500円)」「保険証・予約不要」で血糖値や中性脂肪を測定できるサービスを展開するケアプロ(東京・中野)。川添高志社長は2013年3月、世界最大の社会起業家支援組織「アシヨカ」のフェローに選出され、日本で最も注目が集まる起業家の一人だ。川添社長は、慶応大学看護療学部を卒業し、看護師と保健師の資格を持つ。東京大

学病院に勤務時代、糖尿病合併症になり、壊疽した足を切断した患者に出会った。その男性は会社で健康診断を受ける機会がなく、糖尿病が悪化し、血液透析を受けるようになったという。

次第に仕事ができなくなり、生活保護を受給せざるを得なくなった。年間の医療費600万円は、税金でまかなわれる。日本の医療費の約3割約

10兆円は生活習慣病関連、社会的コストは大きい。

糖尿病は、自覚症状がないまま進行する。傷が治りにくくなるが、痛みを感じにくく、視力も落ちるため、変化に気付かない。傷口から壊疽が起きやすくなる。だからこそ、予防には定期的な健診が重要だ。ところが、一年以上健診を受けていない「健診弱者」は全国で3300万人にも上る。中

でも健診を受ける機会が少ないのは、自営業、フリーター、主婦、ホームレスだ。そこで、川添社長は2007年にケアプロを立ち上げ、ワンコイン健診を始めた。

海外展開も視野に

ワンコイン健診は、血糖値なら10秒、総コレステロールや中性脂肪なら3分で結果が出る。採血は医療行為にあたるが、血液検査機器を使った「自己採血」にすることで課題をクリアした。2008年11月のサービス開始以来、14万人が受診。受診者の3割が異常値を示しているという。

ワンコイン健診は、中野店のほか2店舗あるが、健診弱者の生活導線に入るため、スーパーやジム、パチンコなどでの出張健診をメインにしている。これまでに出張健診を2千回以上実施。さらに受診者を増やすため、企業や自治体に場所の提供を呼びかけている。

ワンコイン健診は、既存の医療機関と競合すると思われるが、健診未受診者の掘

り起こしにつながる。この革新的なサービスは早くから多くの共感を集めたが、一方で、行政指導が増え、突然出店許可が取り下げられたり、資材の流通がストップしたりするなど困難も多々あった。

川添社長は「アシヨカフェロー」に選出されたことで、大きな信頼と支援を得られた。ようやく拡大フェーズに入ってきた」と話す。今後はブランディングに力を入れていきたいという。

ケアプロのミッションは、「革新的なヘルスケアサービスをプロデュースし、健康的な社会をつくること」。2012年5月には、新事業として「24時間訪問看護サービス」を東京都中野区と足立区で開始。2014年1月には、JICAの支援を受け、インド・ニューデリーでワンコイン健診を始める予定だ。

川添社長は、「健康な人はいつまでも健康に。万が一、病気になっても安心して治療を受けられる社会をつくりたい」と力を込めた。

(副編集長 吉田広子)